

1. 目的 「福井県長期ビジョン」の描くふくいの将来イメージ*の実現に向けて、新たな敦賀港の「長期構想」を策定し、必要な施設を整備するための「港湾計画」を改訂

* 将来イメージ「2040年のふくい①」 国土強化の新ネットワーク

敦賀港が世界最高水準のスマート港湾に進化し、関西・中京からアジアへの物流を最速化。環日本海諸国への外貿航路や国内各地への内貿航路が拡大し、日本の一大物流拠点となっている。

2. 長期構想と港湾計画の関係

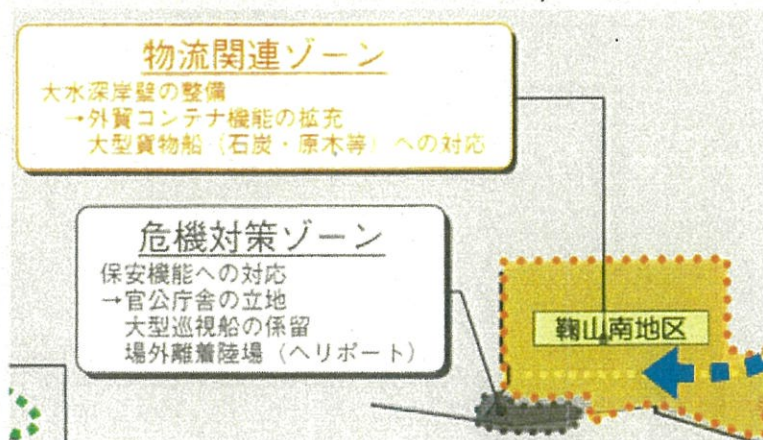
長期構想 (令和2年度策定)

20~30年の長期的視点から、港の空間利用の基本的な方向を示すもの

(構成)

- 1 将来像、方向性
- 2 空間利用計画 (ゾーニング)
- 3 実現に向けた取り組み

※ 鞠山南の記載例 (長期構想 H17.8策定)



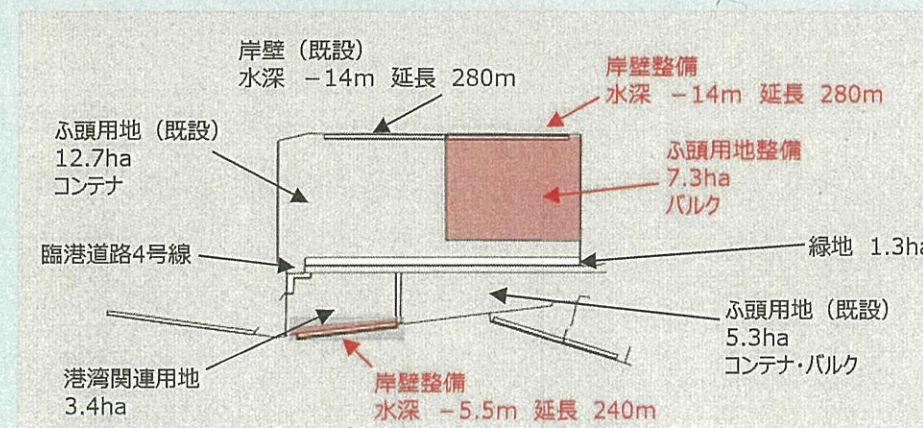
港湾計画 (令和3年度改訂)

長期構想を踏まえ、10~15年後の港湾の能力、港湾施設の規模と配置、港湾の環境の整備と保全等の事項を定めるもの (法定計画)

具体的な整備計画

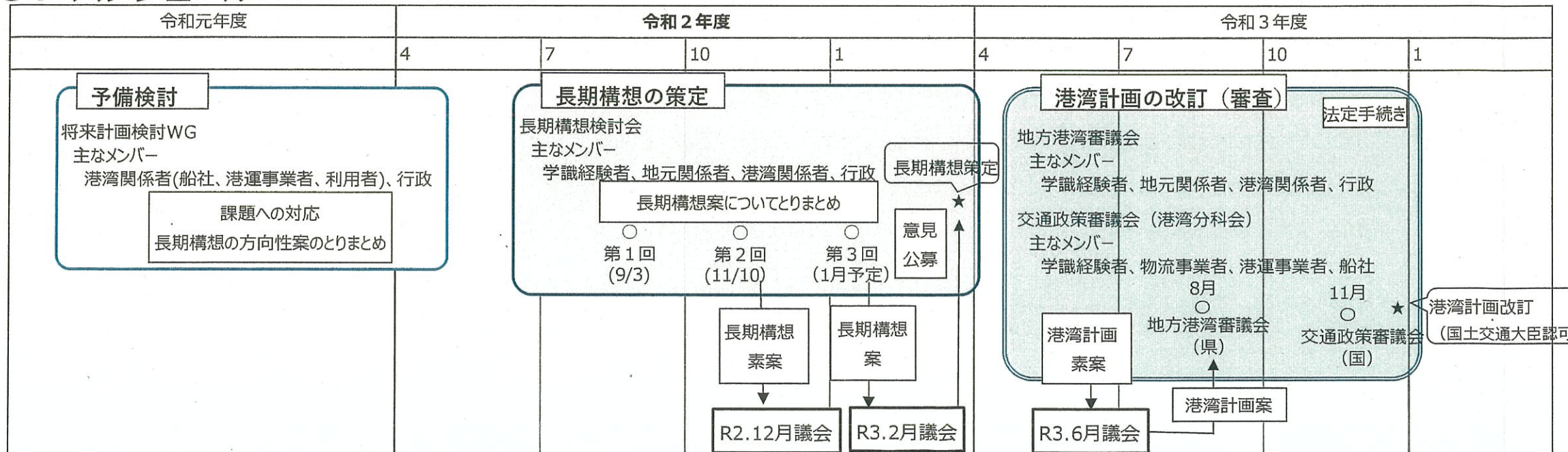
施設の数値規模、配置、面積、延長など

※ 鞠山南の記載例 (港湾計画 H17.12改訂)



10~15年後の姿を想定

3. スケジュール



敦賀港の将来像と基本理念・方向性

基本理念

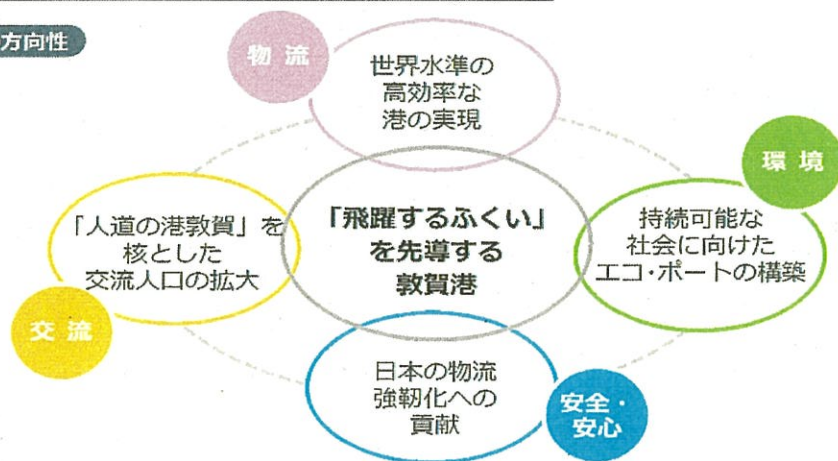
「安心のふくい」を未来につなぎ、さらなる挑戦！

SDGsの理念に沿って、国内物流・国際貿易・交流のエントランスとしての責務を受けとめる

将来像

「飛躍するふくい」を先導する敦賀港

4つの方向性



方向性

1 世界水準の高効率な港の実現

- ・中京・関西から最も近い日本海の玄関口
- ・北海道・九州を結ぶ日本海航路により日本全域が貨物背後圏

施策Ⅰ 日本海側高規格ユニットロードターミナルの形成

プロジェクト

- ①人手不足に伴うモーダルシフトの進展による新たな物流ニーズへの対応
- ②自動離着岸装置等の最先端技術の活用による高効率化・省力化・時間短縮
- ③将来的な成長センターとなる東南アジアに向けたダイレクト航路形成
- ④地理的優位性を活かした対岸諸国等との海上物流ニーズへの対応（韓国・中国・ロシア航路の誘致）
- ⑤港内静穏度の向上
- ⑥企業誘致（製造業、倉庫業等）

施策Ⅱ ふ頭再編・用地造成による貨物集約と関連用地の確保

プロジェクト

- ①貨物種別ごとの集約による高効率化・省力化
- ②物流関連企業の敦賀進出の促進

方向性

2 日本の物流強靱化への貢献

- ・120分圏内の中京・京阪神と高速道路網で複数ルート（さらに中部縦貫自動車道整備中）

施策Ⅲ 災害時の太平洋側港湾バックアップ港としての機能確保

プロジェクト

- ①災害に強い敦賀港の整備
- ②敦賀港アクセス向上に向けた高規格道路ネットワークの整備促進
- ③ふ頭用地の確保・拡充に向けた集荷
- ④施設の適切な維持管理や計画的な更新

方向性

3 「人道の港敦賀」を核とした交流人口の拡大

- ・令和4年(2022年)度末の北陸新幹線敦賀開業、訪日外国人の増加

施策Ⅳ 港を中心とした観光誘客

プロジェクト

- ①クルーズ船誘致の推進
- ②金ヶ崎周辺のにぎわい創出
- ③フェリー乗船客の利便性向上
- ④市民にも愛される港づくり

施策Ⅴ ふ頭再編による貨客分離

プロジェクト

- ①クルーズ・フェリー専用ターミナルの形成
- ②小型船溜まりの整備

方向性

4 持続可能な社会に向けたエコ・ポートの構築

- ・フライアッシュを用いたセメント生産
- ・木質バイオマス発電のためのPKS・木チップの輸入等の実績、社会的要請

施策Ⅵ 低炭素化、再生エネルギー・リサイクルの推進

プロジェクト

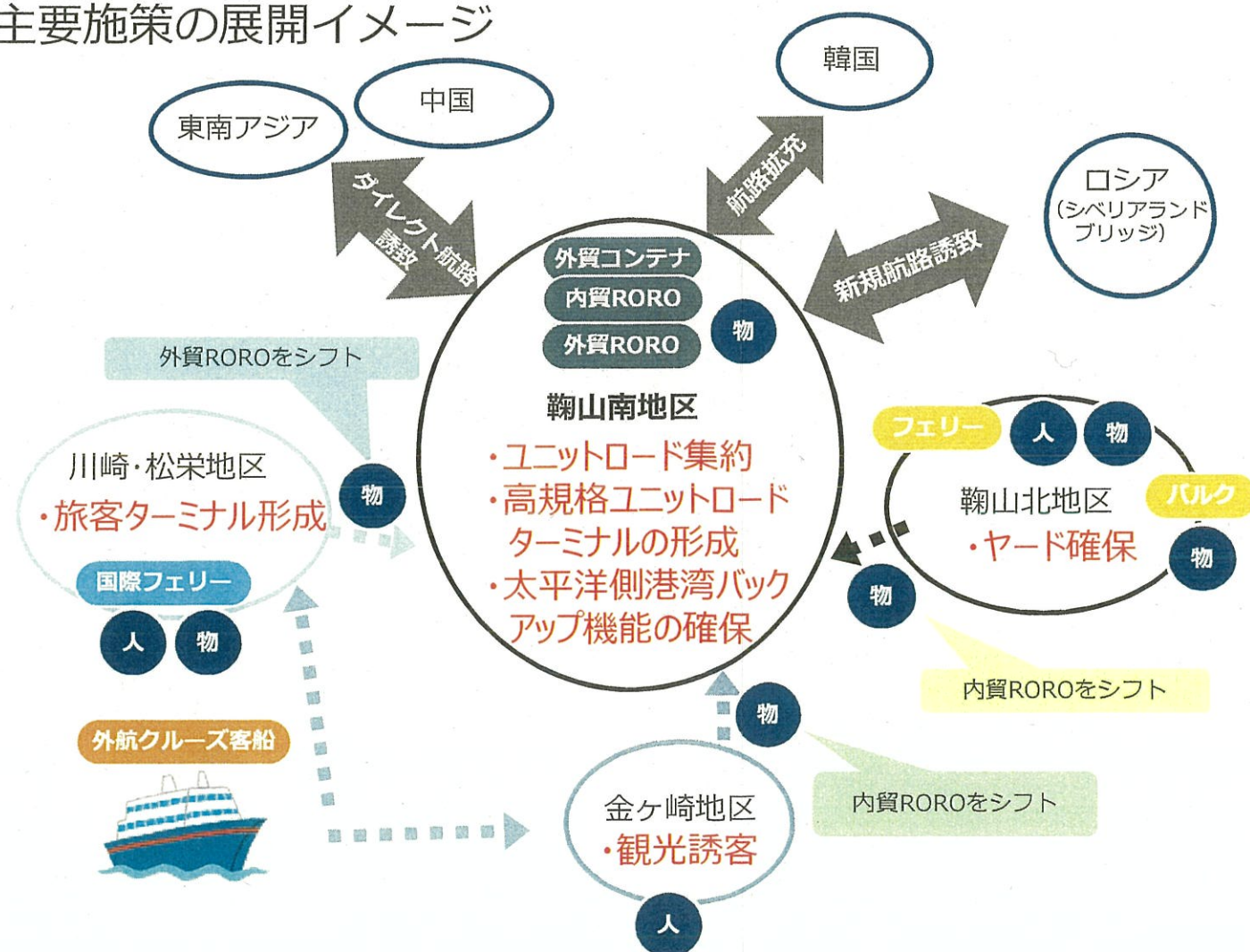
- ①北電石炭火力発電のバイオマス混合燃焼の促進
- ②自然エネルギーの誘致
- ③LNGインフラの誘致
- ④モーダルシフトの促進

施策Ⅶ 環境との調和・共生

プロジェクト

- ①養浜等の海岸保全、藻場の保全
- ②水産業の振興

主要施策の展開イメージ



4つの方向性に基づく基本ゾーニング

方向性	ゾーニングの考え方	基本ゾーニング
物流 安全 安心	世界水準の高効率な港の実現 日本の物流強靱化への貢献	物流ゾーン
交流	「人道の港 敦賀」を核とした交流人口の拡大	交流ゾーン
環境	持続可能な社会に向けたエコ・ポートの構築	エコゾーン

空間利用構想（機能配置案）

